

第3回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会 議事録

日 時 令和3年11月18日(木) 9時30分～12時00分
場 所 仙台市役所本庁舎2階 第二委員会室
出席委員 馬場正尊委員(座長)、姥浦道生委員、太田伸志委員、大庭克己委員、
小島博仁委員
ゲストプレゼンター 渡邊浩司国土交通省大臣官房技術審議官
仙台市出席者 浅野吉昌まちづくり政策局次長、岩城利宏財政局理事兼次長
反畑勇樹都市整備局次長、佐藤秀樹建設局次長
基本設計受託事業者 小林一文氏、千葉学氏
事務局 PwCアドバイザリー合同会社、
菅原大助仙台市財政局本庁舎建替準備室長、その他職員

1 開会

事務局 ただいまより、第3回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を開会する。本日の検討会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、委員の皆様のお席の間隔を広めに取るとともに、傍聴席等についても可能な限り、間隔をあけて配置している。また、マスクの着用や入室時の手指消毒をお願いしている他、傍聴や報道機関の皆様は、受付での健康状態の確認と、お名前とともにご連絡先をご提供いただいている。

2 委員等紹介

事務局 お手元の資料1を委員のご紹介に代えさせていただく。馬場委員については、第1回の検討会で座長に選任されているため、引き続き座長をお願いしたい。なお、岩間委員、菅野委員については、本日欠席となっている。また、本日は、東京都豊島区における南池袋公園の整備や街路空間利活用事業など、地域主体の運営スキーム構築等の事例に数多く携わられている、国土交通省の渡邊浩司技術審議官をゲストとしてお招きしている。

(ゲスト紹介)

事務局 仙台市からも前回同様に4局の次長が参加するほか、基本設計受託事業者である石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体からも、小林氏、千葉氏に引き続き参加いただいている。

3 プレゼンテーション(要旨のみ)

- ・オリエンテーションとして、第1回及び第2回検討会から議論してきた内容を踏まえ、本日のディスカッションテーマであるマネジメント手法や運営主体のあり方について、馬場座長より説明。また、本日の到達目標である、①一体的エリアの想定、②一体的エリアでのアクティビティの想定、③マネジメント手法や運営主体の想定、以上の3点を共有した。

- ・資料3-1「サウンディング調査結果概要」について、事務局（PwC アドバイザリー合同会社・田頭氏）より説明。新本庁舎にふさわしい低層部と周辺広場等のあり方を検討するために実施したサウンディング型市場調査の結果、全参加事業者（8者）の本事業に対する理解や関心度合は高く、本事業のポテンシャルを確認できた。また、調査によって明確化した課題等も踏まえ、引き続き、市民協働や賑わいに資するための運営手法等の検討が必要である点についてプレゼンを行った。
- ・資料3-2「まちづくりと連携した市役所建て替えとウォークアブル」について、渡邊浩司技術審議官より説明。姫路市や豊島区の事例を紹介しながら、居心地が良く歩きたくなるまちづくりのあり方について言及し、公民連携の目的及び市役所のミッションを踏まえたこれからの「人間のための都市」まちづくりについてプレゼンを行った。

4 ディスカッション

- | | |
|---------|---|
| 馬場座長 | <p>ここからディスカッションをさせていただきたい。ディスカッションの到達点は、前述をしたとおり、①一体的エリアの想定、②一体的エリアでのアクティビティの想定、③マネジメント手法や運営主体の想定、以上の3点である。</p> <p>本日は皆で模型と図面を前にディスカッションをする。ディスカッションに入る前に、渡邊技術審議官のプレゼン内容について皆様から感想をいただきたい。</p> |
| 姥浦委員 | <p>ハードとソフトの両方が重要であるが、南池袋公園を整備した際は、この2つをどのようにリンクさせて検討を進めたのか。新本庁舎の設計やアクティビティの枠組みをどう進めれば良いか参考にさせていただきたい。</p> |
| 渡邊技術審議官 | <p>株式会社ランドスケーププラス代表の平賀氏がデザインした南池袋公園と、としま会議のアクティビティは結果的にうまくつながることができたが、平賀氏は、「南池袋公園をよくする会」の必要性を当初から強く訴えており、設立後は平賀氏も参加していた。何かアクティビティを行うのであれば、まずは「南池袋公園をよくする会」で議論をして決めるというやり方を行ってきた。南池袋公園の仕組みは、カフェの売上を「南池袋公園をよくする会」に一部還元して、色々なアクティビティを行えるようになっているが、実際は「南池袋公園をよくする会」が第三者機関として南池袋公園にふさわしいアクティビティなのかをネガティブチェックする役割を担っている。「南池袋公園をよくする会」の中でも意見が対立してうまく進まないこともあるが、現状は、「IKEBUKURO LIVING LOOP」を企画・運営する株式会社 nest と連携して活動を行っている。</p> |
| 馬場座長 | <p>当初は「南池袋公園をよくする会」に株式会社 nest が参画していなかったが、途中から参加したことで情報共有が一举に図られるようになった印象。豊島区は千葉氏も関わっているが、ご意見等はあるか。</p> |
| 千葉委員 | <p>アクティビティから場のあり方が決まるアプローチは、ハードを担当する側（設計者）からすると心掛けている部分である。また、市民一人一人が当事</p> |

者意識、当事者目線を持つために何ができるのかという会議体のあり方は非常に価値があると思った。

豊島区池袋駅周辺地域再生委員会の委員をしている立場で印象深いのは、豊島区では職員から区長まで議論をたくさんしており、「どんなまちにするか」の概念論だけでなく、「どう空間に落とし込むのか」というハードに関する部分まで議論がなされているということである。姥浦委員の質問にも通ずるが、アクティビティを考えつつも、どういった空間が必要なのかという議論の行き来が大事であると再認識した。

岩城理事 従前の行政の考え方としては、ハードをつくって目的を達成している面が多分にあったが、市民や企業に利用していただけるアクティビティがあるハードこそ価値があるというのはそのとおりだと再認識した。仙台市の財政事情を踏まえるとコストも踏まえる必要があるが、アイデア次第で紹介いただいたアクティビティを作れることがわかり、大変参考になった。

「南池袋公園をよくする会」と株式会社 nest の関係について質問させていただきたい。公園のカフェ収益は「南池袋公園をよくする会」にのみ帰属するスキームになっているのか。

渡邊技術審議官 「南池袋公園をよくする会」は、当初からハード整備と並行してスタートしており、オープン後も活動しているが、これは南池袋公園の収入含めた枠組みに取り込まれている。一方、株式会社 nest は、南池袋公園とグリーン大通りの地域活性化に係る公募で選定された事業者であり、豊島区の委託費で活動をしている。委託費の数百万円では運営できないため、ほぼボランティアで活動していると聞く。

馬場座長 私自身が株式会社 nest の役員であり、課題を含めてコメントをさせていただく。南池袋公園は初の取り組みだったため、組織が複数あり、「南池袋公園をよくする会」は、マクロ的な目線で見てもらう組織としては大事な組織である。一方、現場でリアルに動いていける組織も必要だが、株式会社 nest は体力がないため、池袋地域に所在する大手企業等と JV を組んで

「IKEBUKURO LIVING LOOP」等のイベントを行っている。これらの活動から地域の共感を得ることができれば、信用力や機動力が出てくる。大きな動きができる場所と小さな動きができる場所が連携することで運営母体ができ、それにより地域再生エリアマネジメント負担金制度（BID）ができる組織が育っていくと思っている。まだ結論は出ておらず、今は活動しながら組織の必要性を試行錯誤しているところである。

岩城理事 行政としては、しっかりとしたスキームを作らないと運営できないという意見もあるが、活動しながら勉強することも大事だと認識した。

馬場座長 ここからは、本日のテーマであるマネジメント手法や運営主体のあり方について議論を進める。まずは、一体的エリアはどこまでの範囲なのかをある程度共有したい。まずは姥浦委員からご意見いただきたい。

姥浦委員 どうお金を儲けつつ市民の幸福度を高めるのかということと、どうコストを

抑えるのかという2点あると考えている。ただ、コアとなるのは、南北の軸線を踏まえた新本庁舎低層部・道路・勾当台公園市民広場のエリアである。その次に、サウンディング型市場調査での事業者意見にも出ていたが、勾当台公園の範囲をさらに広げていこいの広場及び歴史の広場を含めた範囲、更には定禅寺通や国分町周辺を含めたより広域な一体エリア等、段階的なものだと考えている。

小島委員 新本庁舎低層部で賑わいが完結してしまうことは避けるべきであるため、定禅寺通や一番町を含めた賑わいがつくれるように南側との連携は必須だと考えている。コアの部分については姥浦委員と考えが一緒であり、経営・運営の観点から、今後の仙台市の方針にもよると理解しているが、いこいの広場と歴史の広場をコアエリアに含めることも視野に入れて連携するということ、また、大事なことはつなぎ横丁との連携や仕掛けも必要であるということだと考える。

佐藤次長 現在、勾当台公園の再整備の検討を進めており、いこいの広場、歴史の広場、市民広場の3エリアとなる。市民広場だけでなく、いこいの広場と歴史の広場も含めてコアエリアと考えてもよいのではないか。利用される範囲としては、既存のイベントは3エリアとも使用しているケースもあり、実際に利用される方の状況やニーズに合わせて利用する範囲が決まることになると思う。

馬場座長 市道表小路線を歩行者天国にする可能性はあるのか。

佐藤次長 青葉区の区民まつりで市道表小路線を歩行者天国にして使用した実績がある。一定の交通量はあるため、社会実験等で合意形成をとりながら進めていくことも考えられる。

浅野次長 勾当台・定禅寺通エリアビジョンの話が出ていたが、ビジョンにおいて、市役所エリアは定禅寺エリアの一部として見ており、そのエリアの中で、市役所の建替えなどが色々とあるという認識。一体的利活用を考えると、使う方々がどう使いたいかによって色々な考え方が出てくる。個人的には、新本庁舎とのつながりといった点や、いこいの広場、歴史の広場も含めて公園であるという位置づけを踏まえると、道路を挟んでいるため東西間の人の移動にハードルがあるものの、コアエリアとしてはいこいの広場、歴史の広場、も含めて一体で活用するのが基本かなと考えている。ただし、一体的利活用の場合によっては、仙台市にとって大きな財産である定禅寺通やその中央緑道あたりとの一体での活用を行ったほうがより望ましいこともありうると考えている。

馬場座長 比較的、姥浦委員の考え方と似ていると理解した。コアエリアがあり、連携が発生する考え方。

太田委員 ニューヨークのブライアント・パークは、芝生にテーブルを置いたのが始まりだったと伺い、きっかけが大事だと認識した。仙台市民は、ここに道があ

るから通って良いと言われても、同じ道しか使わない人も多いかと思われる。なぜ人が歩きたくなるのかが大事で、例えば、週末限定で勾当台通を歩行者天国にして、道路を公園の一部とすると、それだけでも気持ちが変わるのではないか。銀座の歩行者天国でも、普段歩けない道路を歩くことができる開放感から、多くの人々が歩くのではないだろうか。仙台市民の固くなった心をどう開けるかが大事だと考えている。

馬場座長 大きな異論がなければ、検討会の方針としては、本事業のコアエリアは新本庁舎低層部と市民広場を対象とし、いこいの広場、歴史の広場、定禅寺通等の周辺エリアは連携先として検討を進めていく方向性としてほしい。
ここからは、アクティビティやマネジメントについて議論したい。まずは太田委員から順にご意見をいただきたい。

太田委員 具体的に何をするのかだが、七十七銀行の社内報で「大学で教えてくれないことは東北の居酒屋が答えをくれる」を連載している。持ってきた1枚目の写真は、CRAFT SAKE WEEK at ROPPO HILLSで株式会社 JAPAN CRAFT SAKE COMPANY 代表の中田英寿さんがやっていた六本木ヒルズのイベントである。
2枚目は逗子海岸映画祭の写真を持参した。自宅のNetflixで映画を観ることができるのに、海岸に仮設スクリーンを設置して映画祭を開催するとなぜか人が集まる。
3枚目はToday at Appleの写真で、これは操作方法を教える会ではなく、Appleがあることでどう生活に変化があるかを教えてくれる学校のような場所である。
これらの写真で伝えたいポイントは、「どういう企画でどういうコンセプトにするのか」という部分である。例えば、東北の良さについて日本酒を使って伝える際に、日本酒のどういうところを伝えたいのかを一步踏み込んだイベント開催が大事になってくる。逗子海岸映画祭についても、逗子で開催する意味や、この映画を選んだ意味に惹かれて集客できていると思う。現代は思いに共感して物が売れる時代であるため、仙台を好きな人がこのエリアに来ると仙台をもっと好きになるアクティビティができれば良い。

姥浦委員 昔からの伝統は続けるべきだと考えているため、1枚目は市民広場の既存のお祭りの写真を持参した。
2枚目は石巻市での会議の写真だが、ここで伝えたいのは、アクティビティをグラデーション化することである。一見難しそうな話でも入口は遊びがあり誰もが参加しやすくなるように、低層部では勉強80%・遊び20%、市民広場では勉強20%・遊び80%というグラデーションがあると良いのではないか。低層部で目指している地域課題の解決の場をつくる際に、難しいことをやるだけではハードルが高く感じる人も出てくるため、少しでもハードルを下げるための場作りとして一体的利活用ができると良い。

馬場座長 ゾーニングではなくグラデーションというのはわかりやすい。

大庭委員 道路空間をいかに活用するかは市道表小路線とつなぎ横丁がポイントだと思っており、1枚目は市道表小路線で飲んだり食べたりできるような空間を連

想させる写真を持参した。夜のシーンも大事だと考えているため、あえて夜の写真を持参した。

2枚目はつなぎ横丁で実際に開催された七夕まつりの写真である。

3枚目はニューヨークのブライアント・パークの写真で、これは市民広場のアクティビティをイメージしている。この写真のように、日常的に様々な人に使われているシーンが市民広場で展開されたら良い。渡邊技術審議官がプレゼン中に流していた南池袋公園の動画のような、街に賑わいをもたらす場所を仙台に作ってほしい。

馬場座長 今回、ブライアント・パークの話題が何度か出たので、ブライアント・パークのスキームについて少し紹介させていただく。国土交通省のHPからブライアント・パークに関するマネジメント内容がリンクされており、内容を読むと、ブライアント・パークの運営者はミッションを掲げている。例えば、体験を経験させる、近隣の不動産価値を向上させる、ブライアント・パークがニューヨークの新たな目的地となるように努める、昼夜を問わず人々が訪れることで犯罪防止につなげて安全な環境を生み出す、といった内容であり、ミッションステートメントに明快な内容が記載されている。運営にあたっては、ミッションの明確化が重要であることがわかる。また、マネジメント組織としては、デザイン部隊がクリエイティブな役割を持ち、ファイナンス部隊があり、第三者機関が見守る構図となっており洗練された組織である。ファイナンスについても、年間売上15億円のうち6億円は企業等からの寄付であり、収入源の複合性等も注目すべき点である。このようなブライアント・パークのスキームは世界で有名であっても、まだ日本で同様のスキームで運営できている場所はないのが実情である。今後の検討でブライアント・パークをベンチマークにしても良いのではないかな。

小島委員 写真を持参する代わりに、模式図を作成してきたので紹介する。本事業では、(仮称)Lab機能の整備を予定しているが、それぞれで行われるアクティビティは独立しているのではなく、例えばどこかの公園で座りながら雑談(リビングラボ的なイメージ)して出たアイデアを拾って議論することもあるだろう。また、政策的・事業的課題を議論しても、専門家がいないと実現性がないため、クロスメディアラボで発信して専門家や仲間を呼び込む活動や発信することも想定される。運用で雁字搦めにしていまいがちなのは行政側であるため、そのあたりをしっかりと緩和して運用しやすくなるように整理する必要がある。

社会実験を行う場合は、国家戦略特区でなくとも仙台市版にして子どもがチャレンジできる場を作っても良い。社会実験をする中で、市民の共感や収益を得ることができそうなのであれば、市役所で育った人々が一番町や国内外に羽ばたける仕組み・商売を展開できる形があると良い。従前は、まちづくりに関心ない市民を底上げすることを目的に市民協働してきたが、今は行政と事業者が公民連携をして受益者である市民にサービスし地域課題を解決する形になっている。その次に、ネットワークとなり、多様な主体との連携を通して社会・地域課題を解決する場をぜひ目指したい。

馬場座長 壮大な話であった。前段は、市民・企業・行政のコミュニケーションを作る

話、後半は市民協働の発展形の模索の話があった。都市課題・社会課題を創造的に解決する上での市民協働の発展がある話であると理解した。

菅原室長 ホワイトボードにメモされた通り、「仙台とテーマ」「グラデーション」「日常・非日常」「連携」等、本日の議論ではとても良いキーワードが出ていた。一体的利活用としては、様々なエリアで同時多発的にアクティビティがあり、そこに一貫性のあるテーマ等もあるのではないということできくつかイメージ資料を用意した。例えば、防災に関するテーマであれば、低層部で防災に関する最新技術発表の場を設け、市道表小路線では環境配慮の情報発信を設置し、定禅寺通を使ったエコなキックボードの乗車体験の実施ができれば良いと考えている。そのほか、アジアと仙台、マラソンと健康、産学官連携といったテーマの取組みをもっと身近に体感できたり、一方で、イベントが無くとも日常的になんとか集まれる・行きたくなる空間等のテーマを考えている。

馬場座長 今までの議論について、渡邊技術審議官からコメントがあればいただきたい。

渡邊技術審議官 仙台市の委員や職員の方は新しい発想で議論できているため、今後の新本庁舎低層部エリアが楽しみである。
豊島区でも議論するが、行動しようとするとは実現できないといったことがあった。ボトムアップで上げていくと、各段階でチェック機能が働くこととなる。それ自体は必要なチェック機能なので悪いことではないが、その機能が働きすぎるとうまくいかないため、豊島区では、この壁を突破するために、公民連携を取り扱う横断的なチームを組成した。横断的なチームで事前に前裁きをしておいて、話を持っていくときは区長を含む経営会議級の会議で承認いただき、庁内に対しては「区長の承認があるから進める」という少し強引な方法をとっていた。同様に、仙台市も横断的に動ける人をつなげて、突破する仕組みを作れると良い。

岩城理事 ご指摘いただいた内容は、公民連携に限ったことではないが、役所の永遠の課題であるとの認識である。組織として作るのか、組織に横串を指すのか、解はないと思うが、各局長等も含めてそういう意識を持たないといけない。いただいた意見を参考にして一步一步進めたい。

反畑次長 市民広場で行われている既存イベントを排除することは難しい。既存イベントの規模はバラバラのため、一体的利活用に向けては、イベントにあわせてそれぞれテーマ設定して、そのテーマごとに、関連する資料展示やワークショップ、子供向けイベント等を同時に開催するなど、全体をコーディネートすることが重要となってくる。そのため事業運営者にはそういった役割も必要となってくる。また、回遊性を高めるためには、定禅寺通との連携が大事であるため、そのための運営スキームをどう作るかが重要になると実感した。

馬場座長 次に向けた課題を明らかにしていただいたと思う。今日は二つの目標があっ

たが、一つ目のエリアについてはコアエリアと連携部分について整理できた。二つ目のマネジメントについては、仙台らしいテーマがしっかりと定まっていべきという話、また、ゾーニングについてはグラデーションのお話が出ていた。日常・非日常が両立する仕組み、ブライアント・パーク等の事例をベンチマークとして考えていく点、市民・企業・行政の三角形のデザインの仕方、市民協働の発展形として都市課題を創造的に解決する話があった。ミッションステートメントとテーマがはっきり描かれていくべきである。これらを踏まえ、次回の検討会では本日出てきた内容を具体化していければ良い。方法論として渡邊技術審議官からは、民間側にも同じようなことが言えると思うが、仙台市の横断的チームの必要性についてアドバイスをいただいた。ディジションメーカーとタスクフォースのチームのあり方、理想的なチーム構成をしっかりと決めておく必要が出ていた。反畑委員からも既存イベント等との連携の為のスキームの必要性も出ていた。公民連携の方向性は大方共有できたと考えており、今回はその詳細を詰めていく形かと思う。ミッションステートメントの内容や仙台市体制がどうあると良いかの想定や、民間体制をどう求めるのかをネクストステップで議論する必要があること等、今後の展開において一連の可能性が見えてきたと考える。

5 公民連携検討会における今後の予定について

事務局 来年2月に第4回検討会の開催を予定。次回の議題は資料4のとおり。

6 その他

(特記事項なし)

7 閉会

事務局 以上をもって第3回仙台市役所新本庁舎低層部等公民連携検討会を閉会する。

以上